

## 第10回エクセレントNPO大賞 「課題解決力賞」講評

### 1. 審査の視点

課題解決力賞は、団体が解決しようとしている課題を明確に理解し、説明できているか、また課題の背景にある法制度や慣習など社会の仕組みの問題をも視野に入れているかを評価します。さらに、事業の対象へのプラスの影響や変化をもたらすことができ（アウトカム目標）、それをデータなどで説明できているかも審査いたしました。これに加えて、市民性、組織力の評価項目の評点を加えた総合点も加味しました。

### 2. 審査結果

#### (1) ノミネート団体

「課題解決力賞」にご応募いただいた団体の中から、次の5団体がノミネートされました。

#### ① 「特定非営利活動法人法人 テラ・ルネッサンス」

今回が4回目の応募となった「テラ・ルネッサンス」はすべての生命が安心して生活できる社会、すなわち世界平和の実現をビジョンに掲げる国際協力団体です。この大きな目的の達成に向けて、「地雷」「小型武器」「子ども兵」の3つの密接に関連した紛争に起因する課題に、創設者と理事長のリーダーシップのもと、組織一丸となって着実に成果を出している点が評価されました。

#### ② 「特定非営利活動法人 障がい者みらい創造センター」

「障がい者みらい創造センター」は、「障がいがあっても社会で活躍できる日本にした」という思いで、知的障害のある中高生向けの就労支援放課後デイサービスや障がい者の短期入所などの支援を行っている団体です。今回が初めての応募です。全スタッフがアウトカム意識した目標設定のワークをするといった点などが評価されました。課題解決力の評点は高かったものの、ホームページに事業報告書や会計報告など記載がないなど、組織力の評点が伸びず、総合点が低くなってしまったのは残念でした。

#### ③ 「特定非営利活動法人 マドレボニータ」

「マドレボニータ」は、産後が起点となる社会問題（産後うつ、乳児虐待など）の解決を目指す認定NPO法人です。今回が4回目の応募でした。概念そのものがなかった産後ケアの課題を「産後白書」の発行などを通じて、可視化している点や、コロナ禍で代表の交代の体制変更を成功裡に進めたことなどが評価されました。

#### ④「摂食障害よりみち」

初めて応募いただいた「摂食障害よりみち」は摂食障害当事者及びご家族の回復サポートや摂食障害の認知及び理解、予防啓発活動を行う団体です。認知度が低い「摂食障害」について、当事者に寄り添いながら、大きな視点から理解し、社会的な課題として解決しようとしている点が評価されました。まだ設立後間もないこともあり、組織としての基盤を強化していくとでよりインパクトのある活動が可能になると思われます。

#### ⑤「特定非営利活動法人 ピッコラーレ」

「ピッコラーレ」は妊娠によって孤立したりせず、誰もが自由に幸せに生きることのできる社会の実現を目指して活動している団体です。今回が2回目の応募となりました。妊娠葛藤を抱える方の個別の相談のみならず、SRHR（性と生殖に関する健康と権利）に関し、他団体と協力しながら積極的に政策提言活動を行っている点が評価されました。インターンやボランティアについて、ホームページ上でももっと情報発信されるとなお良かったです。

### (2) 課題解決力賞

今回の「課題解決力賞」は、慎重に審議をした結果「特定非営利活動法人マドレボニータ」および「特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス」の2つの団体への授賞を決定しました。「マドレボニータ」が取り組んでいる産後女性の課題、「テラ・ルネッサンス」が取り組んでいる「世界平和の実現」という国際的な大きな課題について、同列に比較するのは難しくもあり、今回は評点が高かった両団体への授賞といたしました。

### 3. 今後に向けての課題

課題解決賞で複数団体の授賞となったのは、第6回に続き2回目となりました。前回も「途上国」を活動基盤とする団体と「地域」を活動基盤とする団体と同一平面で比較するのが難しいという、今回と似た議論がありました。回を重ねるにつれ、評点が拮抗することも多く、競争も激しくなりますが、この点について、今後も議論を続けていければと思います。